

c-95

4905

221
4.0

此ノイSU

喫驚しむ

ひつくり
たも

君よ我救はれん爲に何をなすべき乎
主イエスキリストを信せよ然らば爾
及爾の家族も救はるべし(徒十六〇卅、卅二)

それ神はその生たまへる獨子を賜ふ
程に世の人を愛し給へり此は凡て彼
を信する者に亡るごとくして永生
を受しめんがためなり(約三〇十六)



●目次

(一) 友との問答……………一頁

(二) 姉さま方よ……………六頁

(三) 子供と酒のみ……………一〇頁

(四) 太助の手紙……………一三頁

(五) 廣の手帳……………一六頁

(六) 清水の祈……………一七頁

嘆驚し玉ふな

○友との問答

て、何も不思議なこともあるまいさ、昔は盗人して處刑にあつて、十字架柱にのせられた程の悪人でさいキリスト様を信仰して、安心したのに、僕が一年の間に眞人間になつたからつて珍らしいことアないよ』

『でも古川君、君の大酒飲で、ど云ッちやア失敬だが、職業さらいな、美味好きな、基將基にはつかり耽つて居て、無頼漢ツて

緯名まで付られた先生が、お宗旨を信じてから、一年もた
 ないのに、酒はれろか煙草まで禁めて、朝から晩まで筒袖で
 働らいてゐるのだから、感心もする喫驚もするのさ、君の改
 宗始末を見ると僕によふな性來無信心の念佛一度唱へた
 こどのない、神棚に燈明一廻つけたことのない奴でさ、お
 宗旨の力へものは大層なものだと思ふのさ、然し僕によ
 ふな怠惰で親不孝で、意氣地なしぢや神様の前へも、何だか
 さまりが悪くて拜む氣が出ないよ、よし拜んで見た所がど
 うせお聞届もなからうと思ふので、君によふな氣になれな
 いのさ、だが君は羨ましいね、先に君を悪く云つた人まで、今
 ぢやほめてゐるものね』

『なんに造作もないことだ、なり玉へ清水君、只信仰すれば』

よいのさ、一体此教をさかない人は神様と云つたら恐ろし
 い、殿しい、まるで繪にかいたエンマのよふに思つてるから
 間違だよ、決してそふでないのさ、神は我々の父様だ、君も僕
 も同じく神様の子供なのだ、……あんだつて信じなくつて
 もかつて、……そふだ其通り信仰しなくつても子供なんだ、
 子供が親から別れて東京や大阪へ行つてた所が、やつぱり
 親子だ、父母は心配して下さるんだ、夫と同じで君は今神さ
 まからはなれて居るし、僕は神様の傍にれる、此丈の違ひ
 がわる分のことだよ、だから君も今迄のことなどは、品行が
 わるいと思つたら遠慮なしに夫を神様にわび申して神様
 の傍に近づいて、僕によふに父なる神様とわび申して
 らんなさい、段々親子の情もわかつて嬉しいことや、有難い

なふ玉し驚喫

ことや、今まで馬鹿げたことを思つてゐたことなどが、分つて来るからね、神様は決して君の思つて居るよふな恐ろしい方ではない、やさしい親切な天の父さまだから、其れつもりでなければなりませんよ、だから聖書にも「神は愛なり」と教へてありますよ」

「成程そふきいて見りや、僕によふに神様などはどふでもよいのだ拜んで見る氣がないのど云ふては濟ない話だ、僕によふな奴まで眞個に子として下さるなら、有難いだが君其神様が只キリストの神様計で、日本や支那の神様ぢや拜んでも駄目だつてのは、合點がいかないね、僕の考なら手近の神様を拜めばよいと思ふがねど云ふもんだらう」

なふ玉し驚喫

様はこふ仰るのだ、「我の外何ものをも神とする勿れ」ツてさ、神様は只お一柱だのに人が種々な者に神と云ふ名をつけたので、一寸云ツて見りや電信局をつかまいて神様だつて云つたり、馬だの狐だの死人だの朽木なとに名をつけたので、そふ云ふ者の神様ぢやない事は分りきつた話よ、僕にも君にも見たことにはないが靈魂が一つあるだらう、そふして全身を支配してゐると思ふだらう、そのよふに此世界には、神様がお一柱あつて萬事御支配なさつてると僕が信じてゐるのだ、君だつて二つの靈魂を持つてるとは思はないだらうさ」

「そりや道理だ、少し僕も分つて來た、神はおそろしい者でなく、親切なやさしいお方で、只お一柱しかなくつて、夫は我

なふ玉し驚喫

々の靈魂の如くで、我々は其子供だと云ふのだな、何れまた
此次に来てゆつくり伺ふよ、
『清水君明日は日曜だから、そんなら兎も角僕と一所に會
堂へ行つて見玉へ、九時からだよ、左様なら……』

○姉さま方よ

十六七から二十位にもあろうかと思はる、姉さま達が十疊
じきの坐敷に七人計り集つて、鹽煎餅とパン菓子をならべ、
茶をのみ乍ら面白そふに打興じておるのは村のお針友達
の親睦會である、會場が古川廣の宅であつたから、耶穌教に
熱心な廣は餘興に廿分間の宗教談話を試みた其主意はこ
ふである。

なふ玉し驚喫

(皆)さんは私が耶穌であることを御承知ですから、ちよッ
とキリシタンのお断を致ませう、皆さんのおツしやる耶穌
と云ふ言葉は、外國の言葉で夫を日本の言葉に直せば救主
と云ふことです、『聖書に其名をイエスと名くべし、蓋其民を
罪より救はん』とすればなり』とかいてあります、人が此頃や
そくと申て私を馬鹿にしてくれますが、實は私のことを
救主とよんでくれると思へば有難いのです、そんなら耶穌
は私共人間を何から救ひますかと云ふに二つあるのです、
其一つは罪から、もう一つは神様の刑罰からであります。
御覽なさい世の中にどんな立派な人でも、人間の義い道を
獨立で歩める人はありません、貴嬢方でもそふです、私の庭
を廿間計りある向ふの柿の木まで、眞直にあるけますか、あ

るいて其あどに繪をはつて御覽なさい、必右左に足あどが
 出でてるのを見ませう、もし始に繩をはつて置いて之につか
 まつてゆけば旨でも行ますがさもなくば、どんなめあきで
 も駄目です、其よふにドンなぬらい人でもキリストと云ふ
 救主につかまつて此世の中を歩まねば、兎角まがつてしま
 ふのであります、人は此義しい道をあゆむべきであるに、わ
 ゆまねばお互に此世を去つて神様の前に出て、裁判を受ける
 ときは刑罰をうけて苦まねばなりません、救主キリスト様
 は此刑罰から私共を救ふて下さいます、ですから百九十年た
 つても死あぬ人は兎も角として私共は此救主のお力をか
 りて救はれねばなりません。
 悪い事のしたいお方はありますまい、けれども皆それをす

るので、所がキリスト様を信じますと、神様のお助けで私
 のよふな酒のみも酒をやめる力が出てくるのです、一生懸
 命に働らく氣が出てくるのです、これもキリスト様のお救
 であります、キリスト様は私共を悪いことをさせないよふ
 に救ふて下さいます、それで私共が耶蘇になりました。
 皆さんもよふか、此キリスト様をお信じなされて、義しい道
 をあゆみ立派な親切な、後々には賢母といはる、よふなお
 方と成つて下さい』
 質朴な柔和な娘子等は、話をきいて喜んだ、ことに彼等は廣
 の改心をほめておつた時であるから格別に感服したよふ
 に見えた。

○子供と酒のみ

酒のみがコップになみくついで傍において、何か他の人
 と嘶をしておる所にやつて来たのは、十二才計りの日曜學
 校生徒で古川廣の弟である、子供は酒のみを見乍ら、叔父さ
 んのお腹は徳利のよふだね、叔父さんのお腹から酒氣をど
 つて、立派な人にするのは、神様のお力でなけりや出來ない
 よ、叔父さんも私と一緒に日曜學校に行つて、神様のお話を
 さくがいよ、して家の兄さん見たいないし、人におんなな
 さいと勸めて、太助叔父さんの顔を、ちよいどのぞいた。
 太助は別段氣にもかけない様子で、笑へ顔で小供の方をふ
 りひき、又義一さんのお説教かね、どふして神様が私のすき

な酒をやめるよふに出來ますかい、何程お嘶をきいても、こ
 れ計りはやられないよ』といひ乍ら左の手で取あげたコッ
 プから、また一口飲んだ。
 『あゝまた飲私のお嘶をきく間のまずにお出なさいよ、い
 ちのきたない叔父さんだね、家の兄さんも先には丁度あん
 なたつたよ、私が今日教會の先生からきいた話をしてわけ
 るから、其間のまずにお出なさい、ね、叔父さん、そのコップの
 酒は一日も二日もそふしておいたと、こゝろが、酒氣がなくな
 らないでせう。然しね、こゝろに『ツ』と義一はつと立て、爐
 邊に沸し、さましてあつた鐵瓶をさげて来て、物もいはずコ
 ップの中へ、ボカ／＼とつぎこんだ、太助爺はびつくり
 して、取上んとする間にコップはあふれ出して、酒氣は大抵

消失せるよふになつた、叔父さん怒らないで、まわそんな顔を
 をせないで、跡まできいてさ、わるかつたら又酒を立代るか
 ら、そらコップの中には酒氣がきれいにちくなつて、あどは
 水晶色のお湯計りこれを一口おわがり、このどふりに、叔父
 さんのよふな、飲人でも、神様のお言葉と云ふ水晶のよふな
 美しい者がお心の中にはいつて澤山たまると、いつでもお
 酒の氣がないよふになつて、叔母さんがいくら喜ぶか知れ
 ないよ、だからね叔父さんも教會に行つてお腹の中を洗濯
 して戴いて酒氣がないよふになつて下さい、私は叔父さん
 が早く家の兄さんのよふに、よい人となるよふにッて、兄さ
 んとお二人で、月曜日の晩には必ずお祈りをしてるのだよ』
 と、段々聲はうるんできて、真心から彼を思ひやる情が見え

た。
 太助は酔もさめて、何と思つてかこれも涙ぐんだ、そふして
 『そふであつたか、それは辱い何れ叔父さんもよッくお嘸
 をきいて信じませうよ』と鼻をつまらしたよふす。
 太助は古川の親類で村一番の大酒家であつた、所がこの無
 邪氣赤子供の嘸と、親切なる心掛とをきいて、非常に喜んだ
 が、さけば、其後酒をやめて立派なキリストの信者となつた
 そふである。

○太助の手紙

太助はキリスト教の信者となつて、信仰は益々堅固で聖書を
 を怠らず讀むので、勿論忙しい身分で三行か四行しか讀ま

ぬ日もあるが、決して休んだことのないには感心である、義
一の話は如く、飯よりすきな酒もやめたので、妻君の喜びは
又格別である、或日彼は其親戚に云ふ手紙を出した、彼
の傳道心がいかに盛であるか、察せられるのである。

前畧、此間は參上種々御厄介相かけ且御土産物まで頂
戴致し妻よりも宜しく御禮申上るよふにと、申出候。
其節もお勧め申上候、基督教の義、是非共御研究の上御
信仰の御運びと相成候、此宗教は世界第一の最も
上る迄には御座なく候へ共、此宗教は世界第一の最も
立派なる教にて、文明各國の智者學者も多く信仰致し
居候、古人にては彼のアメリカ發見者なるコロンブス
氏、引力發明者なるニウトン氏、電氣發明家なるフラン

クリン氏などを始め算へされぬ程これあり候、教祖キ
リストが如何なる人か神かは、其歴史によりて分明に
御座候、キリストは別段大中小學の規則立たる教育を
うけたることなく、門閥の誇るべきなく、洋行せしこと
あく、金満家でなく、而して只三年間宣教に従事致したる
のみにて、嫉み悪みの中心とあり、バリサイ、サドカイ、へ
口テ杯の黨派のため、終に無慘にも、潔白なる御身分に
てあり乍ら十字架の上に死を遂られ候、これ即吾人々類
の贖罪に御座候。

これを釋氏や孔子の門閥と名譽と最大多数の弟子を
有し、永い年月の間傳道したる結果と比するも、教祖の
貴きことは知れ申べく候、新約聖書一部差上候間よく

此邊につき、教祖の福音傳御玩味下され度候、不盡。

○廣の手帳

古川廣の手帳をあけて見ると、こふ云ふことが記してあつた、キリスト信者の心掛どでも云ふべきであらふか。

毎日忘るべからざる心掛のケ條

聖句

汝心を盡し、精神を盡し、意思を盡し、主ある汝の神を愛すべし、これ第一にして大なる誠命あり、第二も亦之に同じ己の如く汝の隣人を愛すべし。

我は事に當るに先ちて、來るべき結果の利害を標準にする事なく、此聖句に従つて斷行すべし、人の謗りを

受るとも、神に従ふことは我心の満足する所なればな

り、神を畏ひて足ることを知るは大なる利なり、我ら何を携へて世に來らず、又何をも携へて往くこと能はざるは明な

り。この聖句を常に思ふて、不平の氣を打消すべし、我はい

かなる境遇にても感謝すべし、機會あらば一般の人に善をなすべし、信仰の族に對ひては

別て之をなすべし。此聖句を味ひて、舉動を以て神の榮を顯すべし、

○清水の祈

清水瀧次郎は、廣の勧めで終にキリスト教を信じて、彼は喜んでおる毎朝さへくど。

主—の血の—い—づみは—、

ふ—かくひ—ろ—し—す—くひの—み—ちから—は

—むべき—か—な—、

オ—はめよ—た—たへよ—主—エスの—血—しは

は—す—べてのつ—みより—わ—れを—さ—へ—き

よむ。(救の歌廿四)

と調子面白き讚美歌の聲が毎朝きかれる。

そふして家の子供らには、

天に在ます我等の父よ、願くは、聖名を崇めさせ玉へ、聖

國を臨らせ玉へ、聖旨の天に於る如く地にも成させ玉

へ、我等の日用の糧を今日も與へ玉へ、我等に罪を犯す者を我救す如く我等の罪をも赦し玉へ、我等を試みに逢はせず、悪より救出し玉へ、國も權威も榮光も世々に父の有なればなり、
アーメン。

と云ふ主の祈りを暗誦させて、共々祈りをする、只一人の古

川廣が信者となつてから、一年たつた、ぬに廣の家族も、

清水の家も、太助叔父さんも信者となつた、神様のお恵みが

加はる時には、石のよふな心も綿のよふにあると見ゆるど

いつて古川一家の喜びは話よふのない程である。

世の中にこれ程有難い、キリストの教をまだ夢にも知らぬ

人があるかと思ふと、氣の毒でたまらない、夫で此お嘯をお

きかせ申ます、どふか喜びの仲間にお這入なさいまし。

手よ爾の罪赦されたり

ハレルヤ

喫驚し玉ふな終

明治三十四年十一月廿五日印刷
明治三十四年十一月廿八日發行

定價金貳錢

著者兼
發行者

名古屋市東片端町甲八十番戶

稻沼鑄代太

印刷者

横濱市太田町五丁目八十七番地

村岡平吉

印刷所

同 山下町八十一番地

福音印刷合資會社

東京市京橋區采女町廿四番地

發行所

警醒社書店



復製
不許

基督教早わかり書

○基督教三綱領

定價 五錢
郵税 二錢

○救の奥義

定價 五錢
郵税 二錢

○救のてびき

定價 二錢
郵税 二錢

○近世文明と基督教

定價 二錢
郵税 二錢

○喫驚し玉ふな

定價 二錢
郵税 二錢

○世界的道德

定價 三錢
郵税 二錢

○人生三問題

定價 二錢
郵税 二錢

○世界的宗教

定價 二錢
郵税 二錢

○ほととぎす

定價 二錢
郵税 二錢

○基督教と儒教

定價 三錢
郵税 二錢

○世はなさけ

定價 二錢
郵税 二錢

○宗教の必要

定價 二錢
郵税 二錢

○救の門

定價 三錢
郵税 二錢

○愛の杯

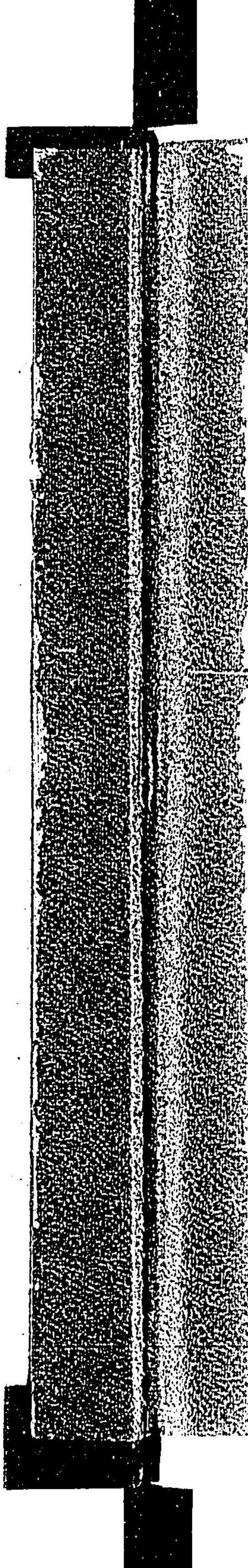
定價 三錢
郵税 二錢

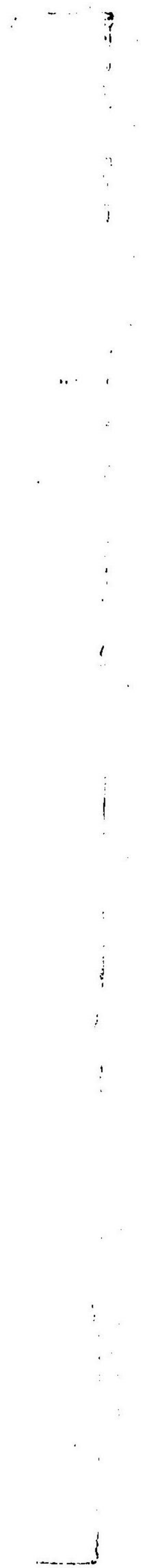
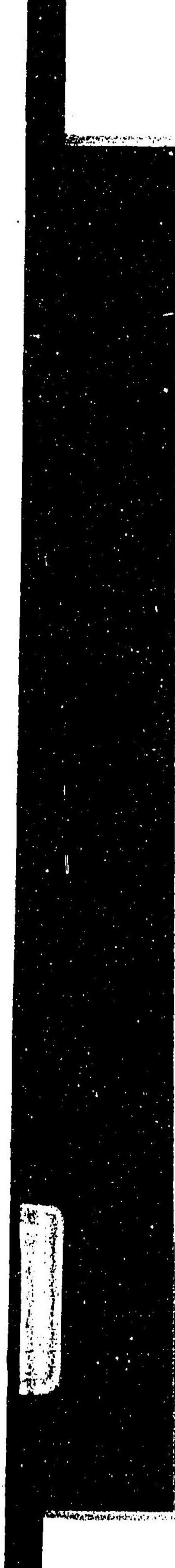
此外數百種あり目錄御入用の方は貳錢御送りを乞ふ



C-45







呷驚し玉ふな

国立国会図書館

091846-000-7

特47-760

呷驚し玉ふな

稻沼鑄代太/著

M34

DBO-0364



特

76

